

『十八世紀イギリス文学研究VIII』執筆要領

論集編集委員会

I. 論文について

1. 寄稿論文（和文、英文いずれも可）は、原則として未発表のものとしします。ただし、すでに口頭で発表し、その旨を明記してあるものは構いません。
2. 字数は、本文、注、書誌などすべてを含めて、16,000字（400字詰原稿用紙40枚）程度としします。図版の挿入枚数に制限はありませんが、図版を含めた論文全体の長さについても、これを目安としします（なお、図版の著作権については、執筆者が責任を負ってください）。英語論文の場合は、6,500～7,000語を目安としてください。
3. 英語による論文の場合、ネイティヴによる原稿のチェックを受けてください。
4. 和文、英文のいずれの場合にも、300語程度の英文シノプシスを付けてください。
（シノプシスは、上記2の枚数には含まれません）
5. 書式上の注意点について（具体的な詳細については、下記【別紙】《実例》を参照のこと）
 - a. *The MLA Handbook for Writers of Research Papers* のいずれかの版に準ずる。
 - b. 注は後注（原稿の末尾にまとめてつける）とする。
 - c. 日本語による論文の場合、引用文は原則としてすべて和訳する。必要があれば、執筆者の判断で英文を併記しても構わない。
 - d. 日本語による論文の場合、外国の人名、地名、書名などは初出の箇所、原名を記す。作家の生没年や作品の出版年などについては、執筆者の判断に委ねる。
 - e. 論文は原則として数節に分け、各節に小見出しを付ける。
 - f. 日本語による論文の場合、英語によるタイトル名と執筆者名をそれぞれ括弧にて示す。
 - g. 巻末に付ける「執筆者紹介」の資料として、現職と最近の業績2点を示す。
例) 名前: 西山 徹 (にしやま とおる)
現職: 名城大学 経済学部 教授
業績: 「貨幣詩人の不安定な価値—古典主義からロマン主義へ」(『十八世紀イギリス文学研究』第7号、開拓社、2022、149-166)
 - h. 原則として Microsoft Word を使用する。他の文書作成ソフトウェアを使用する場合はファイル形式を以下のものとする。(doc/.docx/.rtf)
 - i. 図版は原稿中に挿入すると同時に、以下の形式の独立ファイルを用意する。(jpeg/.jpg/.png/.tiff/.tif)
6. 原稿の提出にかんして
 - a. 原稿は締め切りまでに、プリント・アウトしたものを郵送で、電子版をメールに添付して提出する。
 - b. シノプシスと「執筆者紹介」についても論文原稿と同様とする。
7. 原稿の送付先は以下とする。

郵送分: 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学経済学部 西山 徹

Eメール: nishiyama@meijo-u.ac.jp

II. 編集について

1. 編集委員会では会員の皆さまからお寄せいただいた原稿を査読いたします。内容に関して若干の修正をお願いする場合がございます。また、編集に必要な指示をさせていただく場合もあります。この点、ご理解ください。
2. 目次の構成、副題の策定、索引の作成については、原則として編集委員会が一括しておこないますが、執筆者に問い合わせや依頼をおこなう場合があります。
3. 論集全体の装丁などは、おおむね第7号に準じます。横組みで1ページ当たり1,000字程度の組み版を予定しております。

III. 出版までのスケジュールなどについて

1. 原稿の締め切りは **2025年3月末日** といたします。
 - a. 査読結果および修正依頼は、**同年8月頃**執筆者に通知する。
 - b. 校正期間は、**2026年1月～同年3月頃**になる予定。
 - c. 校正は2回までとし、校正段階での大幅な加筆修正は認めない。
 - d. 2校は原則として、初校の修正箇所の確認のみとする。
 - e. 出版予定は、2026年7月のジョンソン協会大会開催日。
2. 出版社については、現在交渉中。
3. 出版は正規の出版とし、図書館、大学書店などを中心としたルートにのせることを念頭に置いております。執筆者負担については、できるだけ抑制すべく、編集委員会としましても鋭意努力していくつもりですが、通常通りであれば執筆者お一人 **8万円**程度のご負担をお願いすることになると思われまます。ただし、図版挿入や、手書き原稿のタイプ打ちなどについては、別途費用がかかる場合がございます。また執筆者数や諸物価の値上がり等の要因もありますので、予定通りにはいかない場合もございます。この点をご理解くださいますよう、よろしく願いいたします。

ご不明な点やご要望などがございましたら、下記編集委員までお気軽にご連絡ください。

以上

編集委員長 西山 徹
編集委員 井石 哲也
一ノ谷 清美
川田 潤
小西 章典
富樫 剛

(五十音順・敬称略)

【別紙】

《実例》

1796年早々に、ロバート・ベイジ (Robert Bage, 1728-1801) の急進主義小説『ハームスプロング、あるいはあらぬがままの人』(*Hermstrong; or Man as He Is Not*, 1796) が出版された。ジェイン・オースティン (Jane Austen, 1775-1817) の姉カッサンドラ (Cassandra Austen, 1773-1845) の執筆メモから明らかなように、『高慢と偏見』(*Pride and Prejudice*, 1813) の前身である『第一印象』(*The First Impression*) の執筆はこの年の10月から開始されている。マリリン・バトラー (Marilyn Butler) やピーター・ノックス＝ショウ (Peter Knox-Shaw) が指摘しているように、ジェイン・オースティンは『ハームスプロング』の初版を所有しており、『第一印象』執筆以前に読んだことは確実であると思われる (Butler, *Jane Austen* 85-86; Butler, *Romantics* 105; Knox-Shaw 100)。しかし、『ハームスプロング』の『高慢と偏見』への影響については、ときに断片的に指摘されはするものの、包括的に論じられたことはない。そこで、本稿では、『ハームスプロング』のなかで用いられた文学的戦略・手法、形式、登場人物、エピソードなどが解体、換骨奪胎され、ある種の変容、修正を経て『高慢と偏見』のなかで見事に再構築されていくさまを検証したい。

引用・参考文献

Austen, Jane. *Pride and Prejudice*. Edited by R. W. Chapman, 1923. *The Novels of Jane Austen*, vol. 2, Oxford UP, 1923-54.

Butler, Marilyn. *Jane Austen and the War of Ideas*. Clarendon P, 1975.

—. *Romantics, Rebels and Reactionaries: English Literature and Its Background 1760-1830*. Oxford UP, 1981.

Knox-Shaw, Peter. *Jane Austen and the Enlightenment*. Cambridge UP, 2004.

Perkins, Pamela. "Playfulness of the Pen." *Journal of Narrative Technique*, vol.26, no.1,1996, pp. 30-41.

日本語文献表記例

ウィリアムズ、レイモンド『文化と社会 1780-1950』若松繁信・長谷川光昭訳、ミネルヴァ書房、2013年。

田中秀夫「トマス・リードの生涯とスコットランド啓蒙」『経済論叢』第183巻、第1号、京都大学経済学会、2009年、27-45頁。